



浦崎 みゆき 議員

本町の貧困対策事業を問う

答 県の貧困対策基金の活用や子ども元気ROOM事業で支援する

問 県の貧困対策基金はどのように活用されているか。

教育長 本町において就学援助の充実を図るという目的で、全所要保護・準要保護の支援に充てている。

問 元気ROOMの目標値と現在の状況はどうか。

子ども課長 事業を始める際に、平成28年1月時点の南風原町の不登校の数字が小学校が25人、中学校20人、合計45人だった。小学校期より支援を行って、中学校期への不登校も減らすことを目標とした。この数値を改善することで目指しているのが中卒を減らす、高校の中退を減らす、そして、若年出産を減らすことが最終目標である。

問 元気ROOMの支援員の役割と状況はどうか。

子ども課長 子ども元気支援員に情報が入って、専門的な方につなぎ、相談を一緒に受け

ている。また会議の中で支援をコーディネートしていく役割である。平成28年度、29年度、2カ年間で合計512人の子供についての相談を受けている。

問 事業の検証の方法はどのように行われるのか。

子ども課長 内閣府から毎年、子供たちが支援員とかかわったことでどのような変化があったかわれたか追跡調査がある。

本町の不登校対応を問う

問 登校支援はどのように行われているか。

教育長 不登校児童生徒の実情の把握・分析とあわせて、町青少年教育相談員、自立支援教育指導員、心の教室相談員等を配置して対策を講じている。

問 登校支援のマンパワーの確保は出来ないか。

教育部長 様々な人に呼びかけて対応できるように、調査

研究する。

北丘運動公園のトイレ設置はどうか

問 平成28年6月定例会にて質問した北丘運動公園のトイレ設置のその後の状況はどうか。

経済建設部長 トイレの規模等まだ確定していないが今後、地元と詰めていきたい。



▲北丘運動公園は一般の方や、地域行事で使用されています。